

臨床研究に関する情報公開

「大腸癌に対する p53 活性化薬の臨床応用に向けた
臨床検体を用いた免疫組織化学染色による生物学的基盤研究」へ
ご協力をお願い

研究機関名 大阪大学、JCHO 大阪みなと中央病院

研究代表者(研究責任者)

瀬戸 寛人 (JCHO 大阪みなと中央病院 外科)

個人情報管理者 院長

1. 研究の概要

1) 研究の意義

腫瘍抑制因子 p53 をコードする TP53 遺伝子は、大腸癌において頻繁に変異を起こしますが、大腸癌の約半数は野生型 TP53 を保持しており、MDM2 阻害薬による p53 活性化療法が期待されています。しかし MDM2 阻害薬単独では、大腸癌に対しては効果が限定的であり、その機序の解明や有望な併用療法の開発が強く求められています。

研究の目的

p53 活性化による生物学的基盤を臨床検体で確認し、将来的な大腸癌治療における臨床応用および治療選択の個別化に貢献することを目指します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2019年9月以降にJCHO大阪みなと中央病院で大腸癌に対して外科的切除手術を受けた患者

2) 研究期間

倫理審査委員会承認後から6ヶ月（予定期間：2026年4月から2026年9月）

3) 研究方法・使用する試料

手術時に治療目的で切除された摘出標本を用いて免疫組織化学染色を行います。研究のために新たに検査や処置などの侵襲を加えることは一切ありません。

4) 使用する情報の項目

標本に対する免疫組織化学染色結果、電子カルテに記載されている診療情報（年齢、性別、病期、病理所見など必要な範囲の臨床データ）

5) 情報の保存・保護

取得したデータは、個人が特定できないよう匿名化したうえで厳重に管理し、外部に個人を特定できる形で提供されることはありません。

症例の提示および写真の掲載にあたっては、個人が特定されないよう十分に配慮し、匿名化を行います。

6) 研究計画書および個人情報の開示

ご希望があった場合には、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、本研究計画の資料等を閲覧または入手することができます。

また、個人が特定されない形にして、学会や論文等に発表しますので、ご了解ください。

なお、ご自身のデータが本研究に使用されることを希望されない場合は、以下問い合わせ・連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

氏名：瀬戸 寛人

所属：独立行政法人地域医療機能推進機構

大阪みなと中央病院 外科

電話番号：06-6572-5721

受付時間：平日 9時～17時